

# 中学生 英語で議論

国際課題解決策を考察

東京でフォーラム 県内49人参加



9カ国の中高校生が交流した国際フォーラム＝4日、東京都の国立オリンピック記念青少年総合センター

国内外の中高校生が2030年に予想される国際的課題の解決策を考える「生徒国際イノベーションフォーラム」がこのほど、日本を含む8カ国の約60校、240人が集い、東京都内で3日間の日程で開かれた。福井県内からは羽水、敦賀、若狭の各高校と福井大附属義務教育学校(後期課程)の計49人が参加し、英語で議論した。

OECD(経済協力開発機構)

日本イノベーション教育ネットワークの国際プロジェクト「地方創生イノベーションスクール2030」の一環。参加する中高校生が、それぞれの地域の課題について学習を進めてきた。会場には各校の学習成果を発表するブースが設けられ、羽水高の2年生10人は災害時の会員制交流サイト(SNS)を活用した情報伝達、敦賀高の2年生10人は原発だけに頼らない地域

経済の活性化策などを英語で説明した。

この後、「環境」「教育」「メディア」などの分野に分かれ意見交換。▽30年時点での課題▽解決策▽その時代を生きる人間に必要な資質―などについて議論した。文化交流の催しもあり、福井県の参加者は福井国体の公式ダンス「はびねずダンス」を披露した。

最終日は「私たちのつながりを確固たるものにし、地球全体のコミュニティをつくらう」とする大会宣言を採択した。羽水高2年の鳥居美結さんは「外国の生徒とのコミュニケーションを通し、英語の重要性を再認識した。住んでいる地域が違つことで物事を捉える視点が全然違つことにも驚いた。考えるだけでなく、行動に移していくことが今後の課題だと感じたと話していた。(宇野和宏)